

第9回

また、すぐ行きたい のどかで、おいしくて 心やすまる場所

札幌から車で約50分走ると、田園風景が広がる長沼町につく。アイヌ語の地名が「タンネ・ト」（細長い沼）という意味から長沼と名付けられた地域だ。なだらかな丘陵があり、丘の上からは美しい畑の風景とぐりと遠くに山並みが見える。

長沼の開拓は何度も川が氾濫したり、とても大変な地域だったと聞いたことがある。そんな土地を見捨てず、豊かな畑作地帯に変えてきた、先人達のたくさんの努力を思う。いまではさまざまな農作物が作られ、おいしいファームレストランや心地よいカフェ、また、アーティストが集まるととても素敵な場所として、知られる地域になった。

この数年、友人がお弁当屋さんを開業したり、札幌でカフェを営んでいた店主が、古民家をリフォームして移住している。また、知り合いのパン屋さんも移住し、理想のパンを焼いている。なぜ、長沼に？と聞くと、どの人にも共通するのは、自分たちの目指す食材が手に入る地域であり、自分たちの速度で暮らすことができるというのが、大きな理由だった。どの人達もよく働き、よく暮らし、人生を楽しんでいるように見える。苦労や悩みはあるのかもしれないけれど、心地よさと温かみを感じる。この土地の良さがいろんな人を引き寄せて、ますます地域の魅力になっているようだ。

毎年、季節ごとにいろいろな形で長沼でのんびりする。ブルーベリーを摘んだり、レストランでおいしいものを食べたり、温泉に入り、風景をながめる。ふと、空を見上げると、うさぎのような形の雲が浮かんでた。心がほっこり和むのである。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。代表作に「さっぽろおさんぽ日和」（北海道新聞社）、近著に絵本「はるとなつは たけのごちそうなーんだ？」（アリス館）と今年1月に出版した「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。また、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。

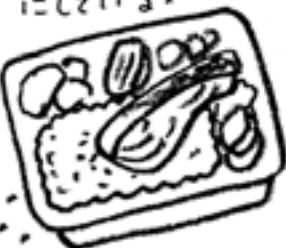


POTORI *
BAKERY



自家製の酵母を使って
できた地元の素材で
焼きたパン！

ごはんや野歩
生産者の顔の見える素材
をこの地にお弁当
にしている。



こだわりの
お店のナカ
なかがめ
ま田丁！



* **ナカマ田丁**
ハナレ
マクロビオティックのお菓子や
食事を提供している。